

4 / 16 『よみがえられたイエスに出会った人たち』(マルコ 16:9~16)

長谷川 望牧師

- * イースターはイエス・キリストがよみがえられたことを喜び、お祝いする日。イエスは死で終わりではなかった。もしそうなら、私たちの信仰は空しい。イエスはただの英雄であったことになるからである。死んだからだがよみがえることは信じがたいことなので、実は死んでいなかったのだとか、墓が空っぽであったのは誰かが盗んでいったのだとか、いろいろ理屈をつけて否定する。しかし、復活が嘘だったと言える完全な証拠はない。そして、よみがえりの事実を最もよく証明しているのが、復活されたイエスが弟子たちのところに現れたという事実である。
- * まず、墓でマグダラのマリヤと数人の女性に、二人の弟子が田舎（エマオ）の方に歩いていて、そして、11人の弟子たちが食卓に着いているところに、約束された通りガリラヤで現れた。そして、500人以上の兄弟たちに、使徒たち全員に現れた（I コリント 15：3～9 参照）。弟子たちは、イエスが生きておられるときに、イエスは死んで三日目によみがえると何度も聞いていた。しかし、よみがえられたという話を聞いても最初は誰も信じられなかったことをマルコ福音書の記者は強調している。しかし、実際に復活のイエスと再会したので信じることができたのである。そして、その復活のイエスを宣べ伝えるために遣わされたのである。「それから、イエスは彼らにこう言われた。『全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。』」（マルコ 16：15）
- * イエスのよみがえりは、ただからだが生き返っただけではない。聖書にはイエスが死んだ人を生き返らせた話が記されているが、彼らはみなその後いつかは死をまた迎えたはずである。しかし、イエスのからだのよみがえりは、朽ちない、死なないからだによみがえったのである。それ故、復活から 40 日後に天に昇って父なる神の右におられ、今も生きておられて私たちと共におられるのである。
- * どうすれば私たちが復活されたイエスに出会えるか。先ずイエスのことを耳にしたら、詳しく聞いてみることである。聞くときは、ある人が言ったように「自己防御スイッチを入れない」こと。固定観念をもって閉ざされた心で何回聞いても意味がない。開いた心と好奇心と探求心をもってイエスに関することを収集することである。そして聖書を、特に福音書を読めばイエスの生涯、教え、そして救いのことがわかるようになる。また、イエスによって人生を変えられた人と知り合いになり、良く話を聞くことである。その人たちは、様々な欠点があるかもしれないが、必ずダイヤモンドのように輝くものがある。彼らはみな、よみがえられた、生きたイエスに出会った人たちだからである。